

平成 28 年度 事業報告書

〔自 平成 28(2016)年 4 月 1 日 至 平成 29(2017)年 3 月 31 日〕

当財団は、「美濃焼」をかけがえのない地域資源と位置付け、それを活用した地域の産業・文化・観光の振興に取り組むことを「目的」とする。そのために、具現化すべき「経営理念」と、職員がとるべき「行動指針」を以下の通り定め、各種事業の完遂に努めた。

財団目的

地域に根付く美濃焼を活用し、岐阜県東濃西部地域の産業、文化及び観光の振興に寄与する。

経営理念

- (1) 美濃焼産業の振興
美濃焼のブランド力の向上と市場開拓に寄与します。
- (2) セラミックパークMINOの活性化と運営の健全化
貸出施設の稼働率の向上と徹底した運営経費削減により、健全経営を推進します。
- (3) 地域観光の振興
岐阜県現代陶芸美術館の運営を支援し、地域の産業観光の拠点として、施設の魅力創造と観光客の増大を推進します。

行動指針

- (1) “安全、安心、快適”な環境整備
- (2) “自主性、責任感、使命感”を旨とした勤務態度
- (3) “スピード、挑戦、やり抜く”業務推進力

1 自主企画事業の実施及び地場産業の振興に向けた取り組み

セラミックパークMINOの主たる設置目的である陶磁器産業・文化及び観光の振興をテーマとした事業を中心に実施した。

- (1) 第10回記念 陶芸作家展 2016 [平成28年5月3日(火・祝)～5月6日(金)]
「美濃陶芸文化の発信」を目的に、美濃の地を代表する陶芸作家作品の展示販売を行った。人間国宝から若手作家に至るまで、幅広い作家層への出品要請のもと、展示販売会と展覧会要素を兼ね備えた、当地でしか開催できない高い独自性と品質を備えた内容を目指した。
特に第10回の記念展にふさわしく、他産地との交流を含め、生活に密着した文化として来場者への涵養を図った。

□ 「陶芸作家展」実績

	出品者数	入場者数	売上高（陶磁器）
平成 28 年度	138 名	9,786 名	13,044 千円
平成 27 年度	125 名	9,421 名	16,386 千円
平成 26 年度	112 名	8,240 名	12,014 千円

(2) レッドカーペット 2016

当初予定していた展示会による商談機会の創出を目指す内容を変更し、美濃焼の新市場の開拓、新商品の開発に寄与することを目的に実施。

従来より継続的にアプローチしている「レクサスコレクション」では、作家と試作品の調整を行い、春夏版で5名9アイテム（内、新規1名、5アイテム）、秋冬版で4名8アイテム（内、新規1アイテム）が採用された。

次年度は、「美濃焼インキュベーション事業」として、「レクサスコレクション」と「国際陶磁器フェスティバル美濃'17」産業振興事業で市場開拓と新商品開発に寄与できるよう努める。

(3) セラパーク楽々市 [毎月第4日曜日と前日の土曜日]

定期開催事業として、施設稼働率の向上及び施設のにぎわい創出に加え、陶磁器産業やその他の地元小売業等の出店による地域活性化を目的として開催。

2004年8月からの継続的な開催実績に加え、構成催事である「骨董市」（民間主催）との連携、「あきんど市」の出展者で構成する運営委員会による組織強化を図り、集客増加に努めた。

また、新規出店者を継続的に募ると共に、ミニイベントや“ありがとう感謝祭”（半期に一度開催）などの付随企画を効果的に実施することで、本催事の価値を高め、魅力的な企画内容の実現に努めた。

(4) セラパーク朝市[毎月1回（第2日曜日）開催]

東濃地域の採れたての野菜や県産品を中心に朝市を開催。作った人の顔を見て直接買う販売形態は会話をして買い物をするという買い物本来の楽しさと呼び起こし、地元住民を中心とした来場を見込んだ。

また、自然観察会を同時開催し、施設の多様な楽しみ方をPRするとともに、ミニSL、ゲームなど子ども連れ親子で愉しめる催事を行い、広く集客に努めた。

さらに次年度は、「セラパーク楽々市」との同時開催とし、更なる集客増に努める。

2 施設の運営・催事誘致活動及び観光施設としての魅力創造

美濃焼を活用した産業振興及び文化・観光振興の拠点づくりに向け、にぎわいと魅力あ

る施設運営に努めた。

(1) 施設稼働率の向上に向けた取組み

稼働率向上に向け以下の取組みを行った。

- ・グーグルやヤフーなどインターネットの検索サイトで、セラミックパークMINOが「貸し会議室」などの検索で上位に来るように、SEO対策を施し、利用者の増大に努めた。
- ・近隣都市を中心に業種を絞り込んだDMによる施設紹介を行うとともに、誘致担当者により、電話や訪問による営業活動を積極的に実施し、需要の掘り起こしに努めた。
- ・施設利用者には、利用形態に応じたきめ細かな施設の利用支援を行い、更なる継続利用に結びつくよう努めた。
- ・イベント会社、広告代理店及びマスコミ関連各社を、施設の広報活動を兼ねて訪問し、施設のパンフレット類の常置を依頼し、施設を利用したイベントの開催を働きかけた。また、施設利用を行うイベント開催事業者などの関連情報を収集し、更なる営業活動に繋げるよう努めた。

□施設別稼働率・施設使用料収入・来館者数の実績

施設別稼働率	目標稼働率	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
展示ホール	50 %	42.6 %	35.3 %	52.4 %
国際会議場	30 %	21.7 %	28.1 %	35.7 %
イベントホール	50 %	34.3 %	36.7 %	42.3 %
小会議室	60 %	37.9 %	42.2 %	49.9 %
茶室	30 %	14.2 %	12.5 %	18.1 %
屋上広場	20 %	25.9 %	22.8 %	32.6 %
施設使用料収入		32,469 千円	30,165 千円	39,540 千円
来館者数 (施設全体)		223,993 人	248,052 人	354,574 人

(注) 稼働率は、該当施設年間利用日数／年間開館日数により算出

(2) 地域の陶磁器産業界及び自治体との連携

地域の陶磁器産業界に、展示会、カタログ撮影会や組合の総会などの開催場所としてセラミックパークMINOを利用してもらえるよう、財団の事業企画での業界との連携を深めるなど関係性の構築に努めた。

また、セラミックパークMINOの運営及び事業を地域を上げて推進するため、岐阜県、3市自治体及び商工会議所、陶磁器関係団体との連絡協議会である「利用促進協議会」を開催し、懸案事項であった飲食施設の誘致等について協議を行った。

(3) 魅力ある観光コースのとしての取り組み

セラミックパークMINOを訪れた観光客に、地域の他の観光施設等を周遊してもらえよう、地域的美濃焼関連施設、文化施設、催事情報、アフターコンベンションとしての宿泊・飲食施設などの紹介チラシやパンフレットをエントランスに常置した。

(4) セラミックパークMINO作陶館の運営

美濃焼文化の根付く地域の特色を活かし、幅広い層の来館者に陶芸文化の素晴らしさを伝える作陶体験施設の運営に努めた。

毎週金・土・日は、年間を通して観光客など日帰り客を対象に、気軽に参加できる作陶・上絵付けの1日体験コースを開設した。また、施設内の空きスペースの有効活用や、作陶指導者を弾力的に配置し、積極的に団体客の受け入れに対応した。

一方、火・水・木は伝統工芸士による年間講座を開設し、少人数できめ細かい指導を行った。

その他、四季折々の行事に合わせた作品制作を体験できるワークショップ企画や、地域の陶器祭りでの陶芸体験の出店、美術館や貸館利用者とのコラボレーションによる陶芸体験企画などを積極的に実施した。

また、インターネットの体験予約申込サイト「アソビュー」、「じゃらん」に参加し、広く集客に努めた。

[年間講座は6講座で各35回/年、ワークショップは美術館主催が9回、財団主催が5回]

□利用実績

	平成28年度	平成27年度	平成26年度
講座参加者	1,092人	1,214人	1,166人
その他(1日体験コースなど)	3,564人	4,089人	3,236人
合計	4,656人	5,303人	4,402人
事業収益	4,860千円	5,435千円	4,628千円

(5) ショップ&ギャラリーMI-NOの運営

本年度の売上目標額を1,700万円とし、以下の通り経営努力をした。

ア 新作の動向を素早く反映させた、陶磁器産地ならではの魅力的な品揃えに努めた。

イ ディスプレイには、四季折々の変化と行事を取り入れ、常に食卓目線のコーディネートに努めた。

ウ ギャラリーコーナーではテーマを決めた企画展を実施し、陶磁器のみならず異素材のクラフト作品等の展示販売を行った。

エ ホームページ、フェイスブックで展示企画の告知を行うなどインターネットを活用した販売促進活動を行った。

オ お客様への声掛けを基本とし、安心して買い物ができる雰囲気づくりに努めた。

カ 器の使い方、美濃焼の説明等をお客様に説明できるようスタッフのスキル向上に努めた。

キ お客様リストに基づいた展示企画の案内を実地し、リピーターの獲得に努めた。

□ 販売実績

	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
売上目標	17,000 千円	14,500 千円	15,000 千円
売上実績	17,437 千円	17,966 千円	30,262 千円

(6) 飲食施設の委託運営事業の開始

美術館と貸し施設を擁する施設として必要不可欠な飲食施設を整備し、来館者にとって魅力ある環境整備に努めた。また、誘致した業者と定期的に意見交換を行い、サービスレベルの向上に努めた。

(7) 岐阜県現代陶芸美術館の運営支援

自主企画事業と作陶体験施設の集客を促進する観光施設としての付加価値を高める要素として、また、県民への陶芸美術の涵養と陶磁器産業の振興に資するため、岐阜県現代陶芸美術館（以下美術館）の運営管理を支援した。

ア 美術館の運営諮問機関である美術館協議会委員に事務局長が参画し、運営支援を図った。

イ スタッフ間で意見交換会を設け、施設内の展示物や掲示物の改善を実施した。

ウ 財団の発行する「イベントカレンダー」に美術館の催事情報を掲載し、広報活動に協力した。

エ 作陶体験施設や施設内の付帯設備を活用し、ワークショップ等の開催に協力した。

(8) 事業の開催支援業務

オープン以来、数々の自主企画事業開催で培った経験を基に、会場設営・撤去の受託からレイアウトのアドバイスなど実施した。

また、2階美術館に配慮した騒音等の対策や、搬入出、設営時の安全性と利便性の確保のため、会場レイアウトや運営スケジュールの事前確認と指導に努めた。

さらに「国際陶磁器フェスティバル美濃'17」の開催準備の本格化に伴い、その事務局業務の支援を行った。

(9) 自然観察会の開催及び里山の整備

希少植物“シデコブシ”など、施設をとりまく恵まれた自然環境を保全し、地域の自然が凝縮した敷地内の環境を、観察会の実施を通してPRし、幅広い年代の集客と啓発に努めた。

- ① セラパーク自然観察会の開催 [開催 10 回、延べ参加者 237 人]
- ② 散策マップをエントランスに常置した。
- ③ 植物等を解説する標識看板を設置した。
- ④ 散策路の朽ちた階段など危険カ所を整備した。
- ⑤ 枯木、倒木などの間伐を行った。

(10) 来館者満足度の向上に関する取り組み

来館者に親しまれ、リピーターとなっていたいただける施設づくりを進めるため、以下のとおり来館者サービスを実施した。

ア 総合案内サービス

年末年始及び毎週月曜日を除く全日に、ショップスタッフによる来館者向けの総合案内サービスを行った。美術館、作陶館、イベント会場等の施設に関する案内や、近隣の観光施設、食事処の案内など、地域の観光やアフターコンベンションに関する情報提供をした。

また、事務所スタッフと連携し、茶室や各メッセ施設を要望に応じて案内するなど、懇切丁寧な説明に努めた。

イ 回廊及びエントランスを「魅せる空間」として活用

美術館と協議しながら回廊やエントランスの展示スペースの見直しを検討した。アーチ部分では里山の自然環境を紹介し、壁面のポスター掲示板には近隣の観光情報を掲示した。アルコープでは、陶磁器作品や近隣施設で開催される催事の広告展示を行った。

また、エントランスでは作品展示の入れ替え、美濃焼に関する催事情報、近隣観光施設のパンフレットや観光情報誌、食事処の案内等を常置し、地域の観光情報の発信の場として活用した。

ウ アンケート調査の実施

職員の対応等や施設運営に関するアンケート調査（来館者・施設利用者の2種類）を実施し、様々な意見を参考に来館者サービスの向上と良好な施設利用環境の整備に努めた。

エ スタッフ勉強会の開催

作陶体験メニューの理解を深めるため、実際に全スタッフがロクロ・タタラ体験を実習し、問い合わせに対して十分な説明ができるよう備えた。

3 施設の維持管理に関する事業

お客様目線の「安全・安心・快適」な環境整備と、無駄な経費の削減に努めた。

(1) 施設の安全確認

職員による施設巡視を徹底し、目視による日々の施設の安全を確認。更に不具合等の早期発見に努め、必要な対策をスピード感をもって実行した。

(2) 施設の警備体制

24時間体制で警備員1名を常駐させ、昼間は施設内巡回を中心とした警備、夜間は警備員室での機械警備、監視カメラ、中央監視装置などを活用した警備を実施した。

(3) 設備の保守管理

設備員 2 名を配置させ、施設内の空調、機械設備及び電気設備の日常的、定期的な点検管理を実施するとともに、点検の結果、不具合の認められるものについては、優先順位の高いものから修繕を行い、故障の未然防止、故障時の早期対応に努めた。また、エスカレーター・エレベーターをはじめとした下記の設備機器については、個別に業務委託を実施し、各機器の保守管理に万全を期した。

設備機器名	点検回数	設備機器名	点検回数
昇降設備保守点検	1 回／月	自動制御機器・中央監視装置	2 回／年
消防防災設備保守点検	2 回／年	吸収式冷温水発生機保守点検	4 回／年
高圧受変電設備保守点検	1 回／月	氷蓄熱ヒートポンプ保守点検	2 回／年
自動ドア等保守点検	3 回／年	吊物・床機構保守点検	2 回／年

(4) 施設の清掃業務

館内清掃は、清掃員 3 名を配置させ、日常清掃を実施し、とりわけトイレについては、常に清潔な状態を保つよう努めた。

また、定期清掃として、フローリング床のワックスがけやガラス清掃などを委託により実施した。

屋外清掃は、シルバー人材センター等を活用し、施設の玄関口である回廊の清掃、駐車場の草刈り、敷地内里山の下刈り等の管理を実施した。

(5) 環境衛生管理業務

「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」に基づく適切な管理を実施した。

(6) 危機管理体制の完備

来場者の安全確保を図るため、「セラミックパークMINO危機管理規程」に基づき、地震、火災、不審者の侵入、不審物の発見などあらゆる自然災害、事件・事故に関し、職員等に周知徹底するとともに、火災避難訓練を実施した。また、関係各機関との連携強化を図り、有事の際に的確かつ迅速な対応のできる体制を目指した。

また、万一の事故に備えて、施設賠償責任保険に加入し万全を期した。

(7) 維持管理経費の節減に向けた取組み

経年劣化に伴う修繕費の増大に対し、設備保守点検などの外部委託費、電気・ガス、水道代、清掃用具・電球類等の消耗品費などの維持管理経費の節減に以下のとおり努めた。

ア 電気・ガス等については、館内空調の温度管理（夏期 28 度、冬期 20 度、美術館を除く。）の徹底、館内照明の間引き点灯の徹底、滝の弾力的運用等に努めた。

イ 外部委託費の内、契約期間を長期契約にできるものについては、長期契約を実施し、委託料の節減及び事務手続きの削減に努めた。

ウ 消耗品費については、「必要な物を必要な時に必要な数だけ」を心掛け無駄の削減に努めた。

(8) スタッフ勉強会の開催

消防避難訓練を実施し、消火設備の所在や避難経路、来館者の誘導などについて理解を深め緊急時に備えた。

4 その他

(1) 評議員会・理事会・監事監査等の開催

事業計画及び予算、事業報告及び決算、役員等の変更や財団の運営の基本的事項について審議を行うため、理事会（6回）、評議員会（5回）、監事監査（1回）を開催した。

(2) 「国際陶磁器フェスティバル美濃'17」への開催協力

既に開催が決定している「国際陶磁器フェスティバル美濃'17」の事務局に参画し、付帯事業、周辺事業の企画や調整を行った。

(3) 美術館、レストランとの定例意見交換会の開催

組織間の枠を超えた施設一体となった運営を目的として、月1回を目安に意見交換会を実施した。